

第2節：交通ネットワークの充実

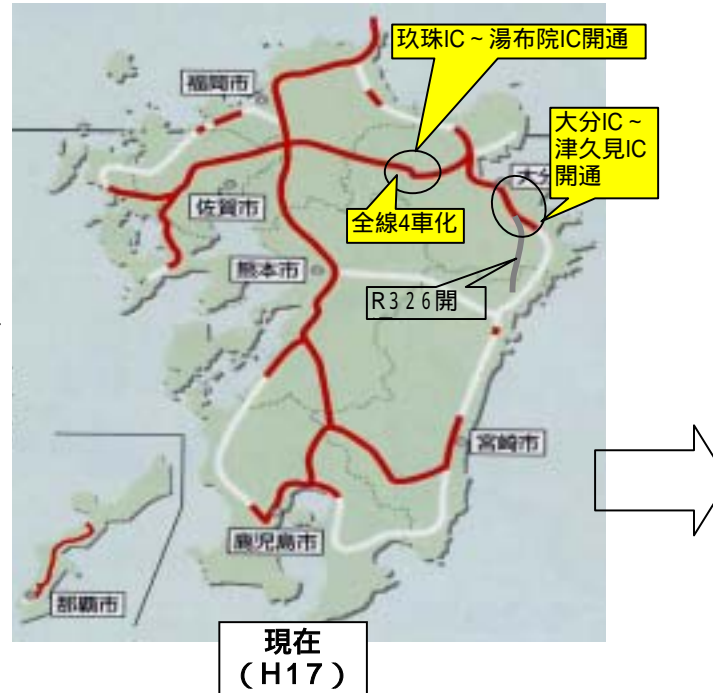
1 道路ネットワークの充実（1）

これまでの成果

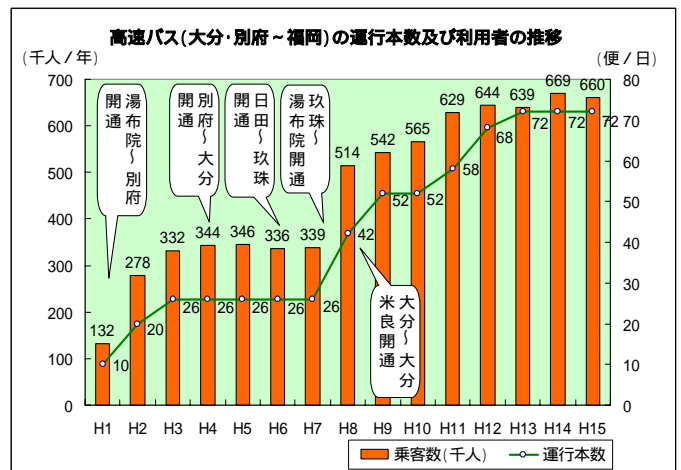
高速道路や国道等は、県民の皆さんの暮らしを支え、産業経済の発展に欠かすことの出来ない重要な社会資本です。そのため、これまでも重点施策として整備に取り組んできました。その結果、様々な面で効果を発揮しています。

主要都市間の所要時間は大幅に短縮、交流圏が拡大しました

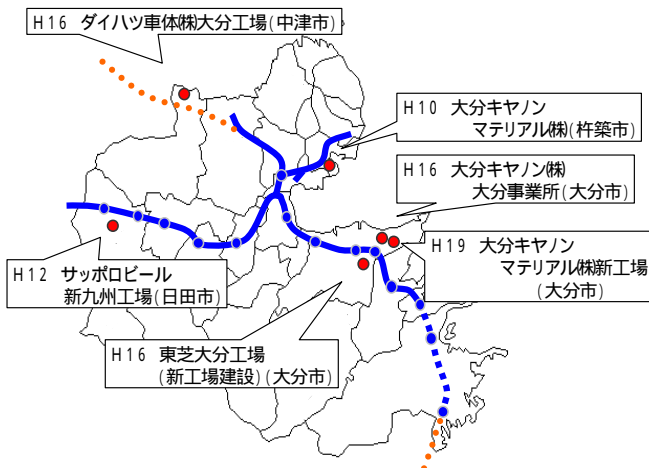
高速道路等のネットワークの変化



		H7	H17
大分市	福岡市	180分	130分
大分市	熊本市	200分	180分
大分市	宮崎市	280分	220分
中津市	佐伯市	160分	120分
中津市	日田市	70分	70分



高速道路などの整備により、大規模な企業の進出が相次いでいます！



(大分自動車道 別府 I C 附近)



より快適に、より便利に、より確実に

主要な都市間の所要時間の短縮を図り、地域の産業経済を支えるため、「東九州自動車道」「中九州横断道路」「中津日田道路」等の高速交通基盤の整備を進め、大分市から宮崎市までの所要時間の40分短縮を、また中津市から日田市までの所要時間の20分短縮等をめざします。

主要な都市間の所要時間の短縮をめざします。



中津日田道路（完成イメージ）

佐伯も宮崎もぐんと
近くなって、おいしい
お魚をいっぱい食べ
に行けるね。



供用予定区間及び計画区間は、事業中の箇所を含みます。



目標指標

	H7	H17	H27	
県都大分市の中心部まで概ね60分で到達できる人の割合	-	89.8%(H16)	94%	
各都市間の所要時間				
大分市	宮崎市	280分	220分	180分
大分市	熊本市	200分	180分	150分
中津市	佐伯市	160分	120分	100分
中津市	日田市	70分	70分	50分

H27の所要時間：東九州自動車道、中九州横断道路、中津日田道路 全線開通時

第2節：交通ネットワークの充実

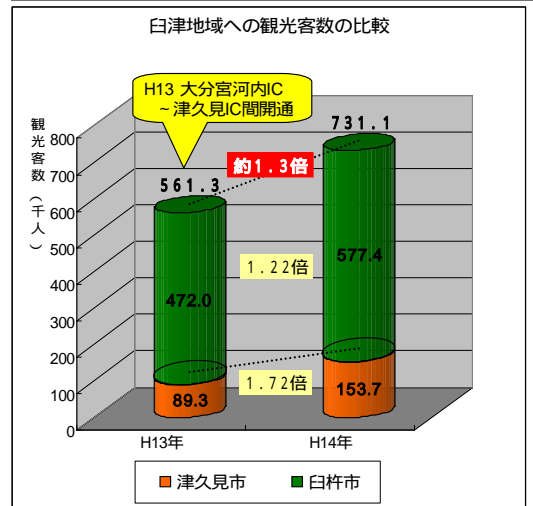
1 道路ネットワークの充実（2）

これまでの成果

観光客の増加など、地域間の交流が増大しています



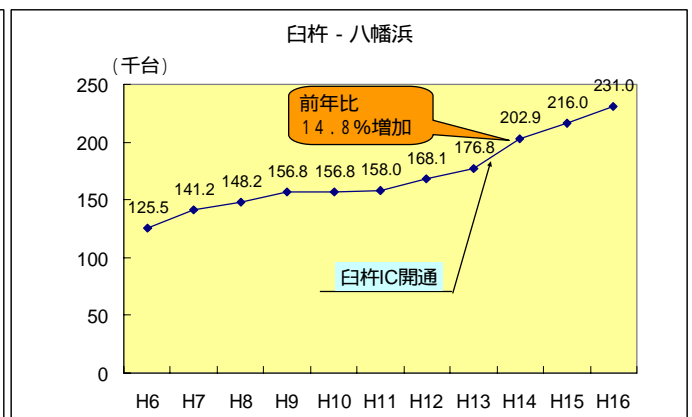
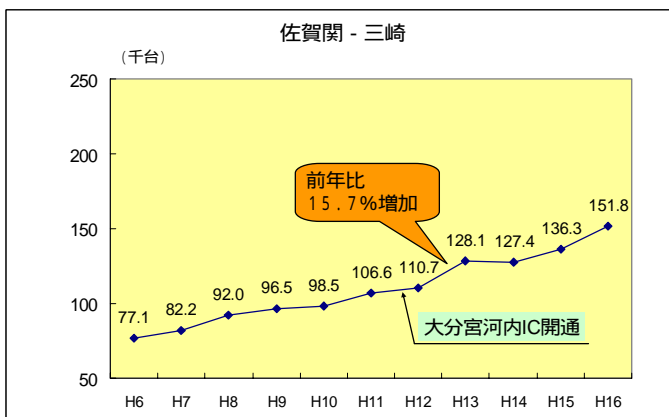
白津地区で観光客が1.3倍に増加！



港へのアクセス道路や高速道路の整備によって、フェリーの利用が年々増えています。



フェリー利用台数の推移

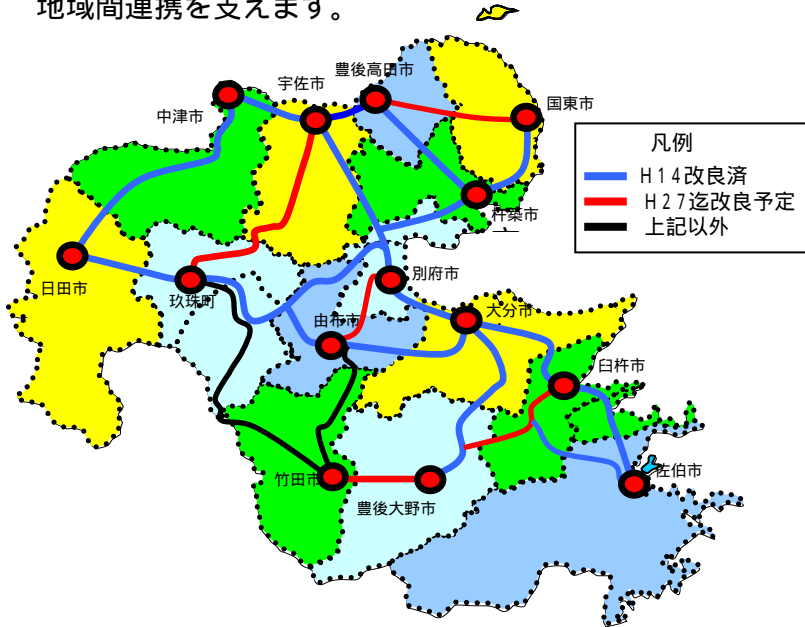


10年後の姿

通勤・通学・買い物など、日常生活がより便利になるように、県民の97%の方が日常生活の中心となる都市まで30分で移動できるよう取り組んでいきます。

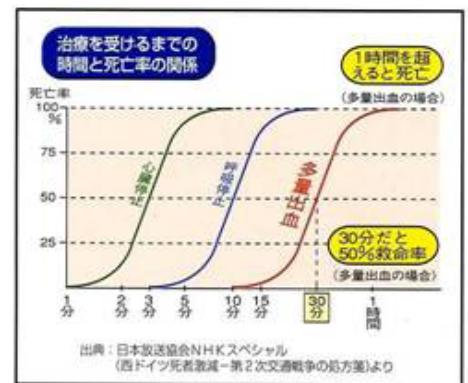
自動車専用ICに30分以内に到達できる地域を拡大していきます。

隣接する中心都市間の道路の改良率を高めることで、地域間連携を支えます。



三重新殿線（新殿工区）

救急救命センター等へ少しでも早く行くことができるよう取り組んで行きます。



観光と地域づくりを一体とするツーリズムを推進するため、地域と一体となった道路整備計画の策定や、道の駅等の整備を進めていきます。

例えば、くじゅう高原を周遊する道路において、旅行者に分かりやすい道路案内標識の整備などを進め、観光による地域活性化を支援します！



周遊道路の愛称・マーク (公募により決定しました)



道路案内標識への記載例

国・県道や都市計画道路と農林道等との企画調整を進め、地域の道路ネットワークの充実を図ります。

目標指標

	現況値 (H16)	平成27年目標値
高速道路ICに30分で到達できる人の割合	86.2%	97%
日常生活の中心となる都市まで30分で移動できる人の割合	93.6%	99%
救命救急センターに60分以内に到達できる人の割合	91.0%	95%

第2節：交通ネットワークの整備

2 海上輸送拠点の充実

これまでの成果

港湾は、背後の道路と連携して交通ネットワークを形成し、物資の流通や観光などに利用され、地域の産業や交流を支える重要な社会資本です。

これまでも、流通拠点となる港湾の整備に重点的に取り組んできました。その結果、様々な面で効果を発揮しています。

中津港の整備により自動車関連産業の誘致が促進され、物流コストの削減や雇用の創出などの様々な効果が現れています。



港があるから進出を決めました
(自動車関連企業)

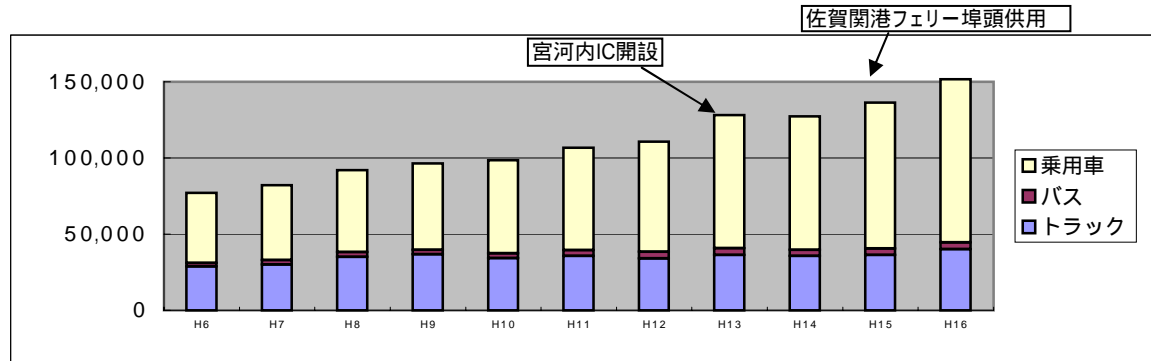
港を中心とした交通インフラが充実しているのが魅力
工場が臨海部に位置し、陸上輸送コストの低減が図れる
周辺に自動車産業が立地し、部品調達が得やすい

中津港の経済効果

港湾利用効果
112億円/年
物流コスト削減効果
69億円/年

(別府港湾・空港整備事務所資料)

フェリー埠頭の整備と高速道路整備の相乗効果で佐賀関港の利便性が高まり、フェリーの利用台数が10年間で約2倍になりました。



佐賀関港フェリー利用台数 (台)

10年後の姿

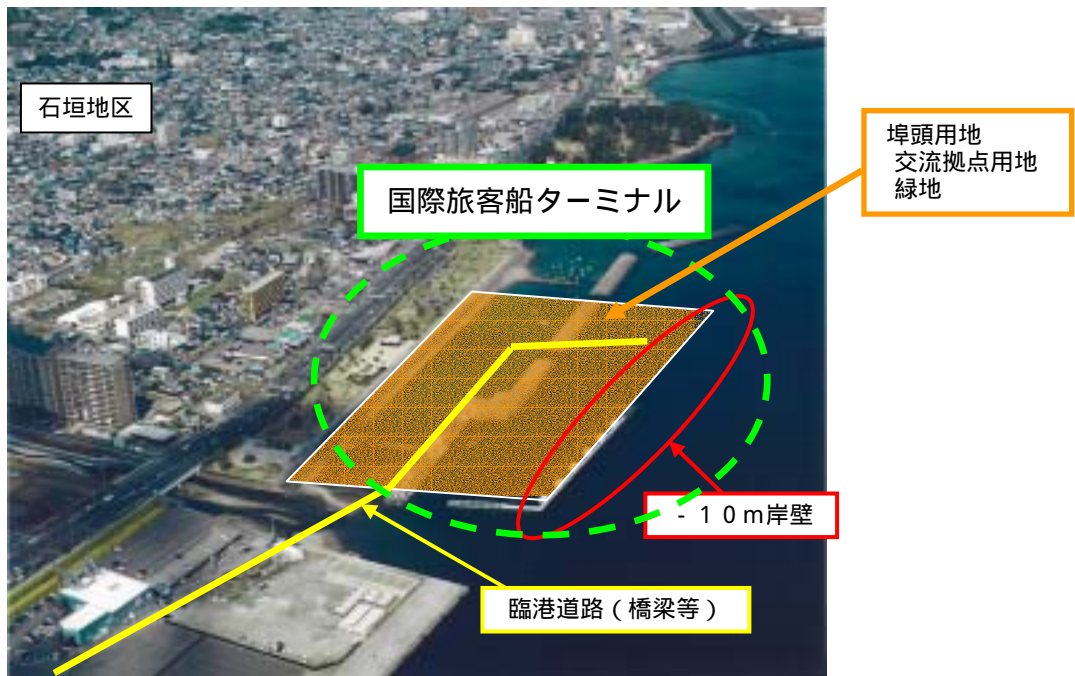
産業経済を支え、地域の発展をめざして

海上交通ネットワークの拠点として、平成27年度までにフェリーの利用台数の6万台増加をめざします。

フェリー埠頭の整備により港の利便性を向上させ、利用を促進します。（大分港）



国際旅客船ターミナルの整備により、旅客船の誘致、観光振興を促進します。（別府港）



目標指標

	H6	H16	H27
フェリーの利用台数	81.2 (万台)	89.4 (万台)	96.0 (万台)
港湾の貨物取扱量 (百万ルートン)	130	119	133